

【対談】 伝えたい可能性、つなげたい未来。

増え続ける要介護者と求職者を結ぶ懸け橋として、

わが国は「超」高齢化の波が顕著に押し進んできています。しかし、依然解決されていないのが、福祉・介護の現場で働く人材の不足です。この構造的な状況は、10年後、15年後、即後の世代が「要介護者」となっていく時代において、いよいよ深刻な問題となるのは確実です。

一方、就職活動を行う上で活用されるツールとして、急増しているのがインターネット上の就職情報ウェブサイトです。

そのような多くのウェブサイトの中にいち早く福祉業界を独自の就職情報だけでなく福祉に関わる人たちへ様々なコンテンツを提供している「福祉の仕事」と、介護事業を運営している実績・経験を活かした視点から人材採用を促えるサイト「ケア求人ナビ」があります。

この2つのサイトが、ノウハウを共有する新たなコンテンツをオープンさせた。どんな特徴を有する就職情報サイトをのぞいてみたいのか？ 業界の今後の展望について両サイトの代表者からお話をうかがいました。

（出席者 佐々木 康一 採用戦略代表取締役社長、長田 隆二 ネットワーク21代表取締役社長）

福祉に必要な介護者の不足

—— 構造的な人材不足。この問題の解決の糸口となるのは、どんな点なのでしょう？

長田 実際に現場では、「語りを持ってやりがえる仕事が多い」と実感しながら働いている方が大多数を占めています。福祉業界を目指す求職者の動機も、この点を挙げる方が多いです。しかしその現場は目の当たりにしていない方にとっては、まだまだサービス業として認知されていない、あるいはボランティア

というイメージを根付けないというのが、現状ではないでしょうか。ですからまずは、認知理解してもらうこと、どんな仕事でも当たり前ですが、スタートアップはそこからです。

佐々木 そうですね。当社は設立以来、企業の人材採用をサポートする業務に携わってまいりましたが、福祉業界に於いて人材需要を向上させる段階で最も重要なのは、まずは業界を知ってもらう、仕事に関する情報だけではなく、資格、学歴、進路などに関するタイムリーな情報を常に集めてきました。一見、回り道のように見えますが、実は「どんな

業界なのか？どんな仕事なのか？」と関心を持ってもらう第一歩がなければ、何も始まりません。

長田 まさに求職者に対するイメージ作りですね。近年、受け入れられる様々な施設が以前と比べても、この分には「種々な努力をされている」という評価を受けています。特にITやIT関連のスキルに改善が進み、各施設が特色を生出した就職環境を整えています。私たちが「ケア求人ナビ」を並べてもらうだけではなく、どれだけ不安要素を少なくしておくかです。そのためにも知っておく努力が必要です。そのために、その働きやすさや給与の面でも、安穏と相まってインターネットが有効です。

佐々木 この度、当社が「ケア求人ナビ」としては、10年以上の経験と実績を積み重ねてきたのは、介護事業に力を入れている企業や個人を何となくは伝えているので、



「ケア求人ナビ」のスクリーンショット

として、この情報量は重要で、求職者を探る求職者にとって、より多くの情報、リアルな現場の声など第三者の立場で良質な情報を伝えることで、先程話に出たミスマッチの解消につながります。そこで、求職者の方にご支援いただきたいという大きな思いです。

長田 求職者にとって就職する時の決め手となるのは、どれだけ良い条件を並べてもらうだけではなく、どれだけ不安要素を少なくしておくかです。そのためにも知っておく努力が必要です。そのために、その働きやすさや給与の面でも、安穏と相まってインターネットが有効です。

長田 私たちがサポートの特徴の一つでもあります。その地域に派と込んだ地元で働きたい、転職したいという希望が強い。そのため、情報を検索する際に、地域を限定する方は意外と多いので、これを紙媒体では困難な点でもフォローしようとしていたら大変な労力と費用が必要となります。インターネットが採用活動に広く活かされ

ることが期待されています。その中で、求職者にとって、より多くの情報、リアルな現場の声など第三者の立場で良質な情報を伝えることで、先程話に出たミスマッチの解消につながります。そこで、求職者の方にご支援いただきたいという大きな思いです。

佐々木 求職者にとって就職する時の決め手となるのは、どれだけ良い条件を並べてもらうだけではなく、どれだけ不安要素を少なくしておくかです。そのためにも知っておく努力が必要です。そのために、その働きやすさや給与の面でも、安穏と相まってインターネットが有効です。

長田 私たちがサポートの特徴の一つでもあります。その地域に派と込んだ地元で働きたい、転職したいという希望が強い。そのため、情報を検索する際に、地域を限定する方は意外と多いので、これを紙媒体では困難な点でもフォローしようとしていたら大変な労力と費用が必要となります。インターネットが採用活動に広く活かされ

ることが期待されています。その中で、求職者にとって、より多くの情報、リアルな現場の声など第三者の立場で良質な情報を伝えることで、先程話に出たミスマッチの解消につながります。そこで、求職者の方にご支援いただきたいという大きな思いです。

求職者と求職者を結ぶ懸け橋として

—— 求職者と求職者を結ぶ懸け橋として、

求職者と求職者を結ぶ懸け橋として、

求職者と求職者を結ぶ懸け橋として、

求職者と求職者を結ぶ懸け橋として、



18 Senior Community 1-2111 2007



プロフィール
佐々木 康一 (Kazuo Sasaki)
1967年 大分県生まれ
1990年 南山大学経済学部卒業
1992年 大手印刷会社入社
1998年 株式会社採用戦略社 代表取締役社長
1999年 株式会社採用戦略社 代表取締役社長
2004年 福祉の仕事—採用戦略社 代表取締役社長
「福祉の仕事」JPN



プロフィール
長田 隆二 (Takashi Nagata)
1975年 千葉県生まれ
1997年 東京大学社会学部卒業
2000年 株式会社採用戦略社入社
2004年 ソフトウェア—株式会社入社
2005年 株式会社採用戦略社 代表取締役社長
2006年 株式会社ネットワーク21 代表取締役社長

Senior Community

2時間で“業界の今”がわかる介護の経営情報誌



特集 どうする！介護の人材問題 -2007-

第1部 「介護現場に即した」緊急経営レポート
《介護の人材確保》現場の時代が始まった

第2部 《対談》伝えたい可能性、つなげたい未来
増え続ける要介護者と求職者を結ぶ懸け橋として

第3特集 在宅療養支援診療所の開設・運営

経営
ライフAGSの「介護施設入居者確保保険」/350万円からはじめる小規模多機能「英語本拠」/
ホームネットの24時間緊急通報支援サービス/古河機械金属の超高度ペダル見守りセンター

特別インタビュー

グループ・バリアン代表（ホームケアクリニック川崎院長）川崎 隆さん
在宅死を支えるグループ・バリアンの実践と将来医療の現状と課題

2007.1・2月号

Vol.45

Senior Community 2007.2月号